

林純薬工業は、2030年までに理想の姿「自由な発想で新種を生み出す新しい林純薬工業となる」へと進化させる。昨年度（22年12月期）にサステナビリティ方針として「創造力で世界の課題に挑戦しよう」を掲げ、コーポレートビジョンを「強く、しなやかに、挑む」に刷新したのに続いて、今年4月には30年までの道しるべを公表。このロードマップをもとに歩みを進めていく。

実現するためには新たな価値を創造する「新種」の人材や製品・事業が不可欠。チームと個人がそれぞれ成長できるような土壌を整えることで、新種の生育を促していく。

一人ひとりが会社の活動に主体的に参画することで強靱なチームを作るということを目的に社長直轄組織「2030準備室」を新設した。社長が人材育成や業務改善などに関わるプロジェクトを発動するとともに、プロジェクトごとに統括役を務めるオーナーを経営幹部のなかから選出。オーナーに任命された次代を

「新種」で新たな価値創造

人材・製品・事業の育成促す

担う人材がマネジメント役を務め、公募や指名で選ばれた各拠点の従業員が実行する。すでに「新入社員研修の改善と底上げ」「人材スキルの複数化」「稟議書のワークフロー化」「勤怠システムの導入」など複数のプロジェクトが進行している。

新種の人材を増やしていく一環として、昨年から新卒採用の仕方を変えた。本社の電子材料の営業職など、あらかじめ勤務地と職種を提示したうえで募集している。入社後のミスマッチを減らし、未来のプロ人材を育てるのが狙い。

各事業の戦略も明確化した。エッチング液、レジスト剥離液などを手がける主力の電子材料事業は顧客との関係を深め、技術も深化させる。海外での商機も探る。

電子材料事業の戦略が「深く」であるのに対し、試薬化成品事業は「広く」。核酸合成用など試薬の品揃えを拡充し、顧客を広げていくことで、国内試薬メーカーの第3勢力へと存在感を高めていく。